

用語の解説

(あ行)

ISO14000 シリーズ

国際標準化機構 (ISO) が制定している環境マネジメントシステムと環境監査等に関する国際規格。

製品提供等の過程における環境保全についての統一基準を示しており、環境保全・改善のための経営方針と行動計画の策定、行動計画実行・運用のための環境管理体制の整備と監査・是正を3年ごとに継続することを盛り込んでいる。

アイドリング・ストップ

自動車の駐・停車時において不必要なエンジンの使用の中止を訴える運動で、環境省が環境にやさしい実践行動、国民運動として提唱。大気汚染防止や騒音・悪臭防止はもちろん、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を大幅に抑制できる。

アオコ

植物プランクトン的一种である藻類の俗称。窒素やリン分の多い富栄養湖において夏から秋にかけて異常増殖して、湖沼水を緑色に変色させる。アオコが発生すると透明度が低下したり、着臭等により上水道への利用が不適当となる。さらにアオコが死滅する際、悪臭が発生するとともに、水中の溶存酸素を奪うため、水産や観光上の被害をもたらす。諏訪湖の場合、アオコの原因は藍藻の一種のミクロキスティス (Microcystis) である。

悪臭

多くの人に不快感を与え、生活環境を損なう恐れのある臭いのこと。悪臭防止法では、その原因物質としてアンモニア、硫化水素、トリメチルアミン、スチレン等の22物質を定めている。しかし、臭いの感じ方は人によって違いがみられ、また量や接触時間によって感じ方が異なるため、上記の物質以外でも悪臭を感じる場合がある。

硫黄酸化物 (SO_x)

刺激性の強い腐食性のある有害なガスで、代表的のものに二酸化硫黄、三酸化硫黄等がある。重油などの燃焼により発生する。このガスは呼吸器を刺激し、せき、呼吸困難、ぜんそく、気管支炎などを起こし、また植物にも被害をもたらす。四日市ぜんそくの原因物質となった。

一般廃棄物

産業廃棄物以外の家庭から出る可燃ごみなどの廃棄物をいう。一般廃棄物の処理は、市町村が処理計画を定めて実施する。

雨水浸透ます

地下水のかん養を図るため、雨水を地下に浸透しやすくするための設備で、ますの底部に砕石を敷き、そこから雨水を浸透させる。

エコアクション

中小企業等でも容易に取り組める環境マネジメントシステム。

エコクッキング

エコロジー（環境）とクッキング（調理）を合わせた造語。買い物、調理、食事、片づけ、排水やごみ処理などの過程に応じて、ちょっとした工夫をしたり、思いやりをかけることによって食生活からの環境への負荷をできる限り少なくしようとする試み。

エコマーク商品

環境保全に役立つ製品に推奨のマークを付ける制度で、平成元年2月から始まった。フロンを使用しないスプレー、再生紙を使用したノート、太陽熱温水器、布製おむつなど、使用したり廃棄しても環境への負荷が少ないか、使用することによって環境が改善される商品のこと。（財）日本環境協会によって認定された商品。

ESCO事業（Energy Service Companyの頭文字を取ってエスコ）

ビルや工場などの建物の省エネルギー診断等、省エネルギーに関する包括的なサービスをESCO事業者が提供し、それによって得られる省エネルギー効果を事業者が保証し、削減した光熱水費の中からESCOサービス料と顧客の利益を生み出す事業のこと。

オゾン層

地球のオゾンの大部分は成層圏以高にあり、これがオゾン層と呼ばれている。1974年、アメリカのカリフォルニア大学のローランド教授がフロンによってオゾン層が壊されるとの学説を発表。対流圏中で壊れずに漂っていたフロンは徐々に成層圏の空気にも拡散していき、そこで特定の波長の強い紫外線を浴びて分解し、塩素原子を放出する。この塩素原子がオゾンの中の酸素原子と結びつき、オゾンを破壊する。

オゾン層が壊れると、皮膚ガンの増加、白内障の増加、免疫力の低下などの健康被害のほか、農作物の収穫減少、海洋生態系の基礎となる浅海域のプランクトンの減少など生物への被害が予測される。さらに、光化学スモッグの悪化と温暖化の促進などの影響もある。このため、国際的に協調してフロンを段階的に廃止していくなどの対策が決まっている。（ウィーン条約及びモントリオール議定書）

温室効果ガス

地表面からの赤外線放射を吸収し、地球温暖化を引き起こすガス。温室効果ガスには様々なものがあるが、二酸化炭素、フロン、メタン、対流圏オゾン等が代表的である。

（か行）

化石燃料

石油、石炭、天然ガスなど、太古の動植物の残骸が地中で数百万年の熱プロセスを受けて生成されたもの。

環境会計

環境保全コストとその活動により得られた効果を可能な限り貨幣単位や物量単位によって定量的に把握（測定）し、分析し、公表する仕組み。

環境学習

人間と環境とのかかわりについて理解と認識を深め、環境の保全に対して責任ある行動がとれるようにすることを目的として、環境に関することを学ぶこと。

環境家計簿

家庭の電気、ガス、上下水道の使用量等をCO₂排出量に換算し、月ごとにその総計を表

すもの。節電、節水等のCO₂の排出量を減らす行動を実践することにより、地球温暖化を防止するとともに、その他の環境問題の解決へも貢献し、また家計の節約にも結びつけることを目的としている。

環境基準

環境基本法に基づいて、大気汚染、水質の汚濁及び騒音等から人の健康を保護し、環境を保全するのに維持されるのが望ましい基準をいう。大気汚染では、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、一酸化炭素、二酸化窒素、光化学オキシダントの濃度が昭和48年5月に告示された。

水質汚濁では、人の健康保護基準（全国一律で、基準は直ちに達成するもの）と生活環境保全基準（河川、湖沼ごとに水域類型を指定した基準値）を決めている。このほか土壤汚染についても環境基準がある。

環境への負荷

人の活動により環境に加えられる影響で、環境を保全する上で支障の原因となるもの。

環境マネジメントシステム

企業などの事業組織が法令などの規制基準を遵守することにとどまらず、自主的かつ積極的に環境を保全するために立案する計画と行動組織のこと。国際標準機構（ISO）は平成8年（1996年）に、環境管理のための規格としてISO14000シリーズを制定し、環境保全に関する方針・目標等を定め、これを実行・記録し、その実行状況を点検して方針等を見直すなど、一連の取り組みを定めている。

グリーンコンシューマー

環境に良い商品を購入する意識の高い消費者。環境に良い企業行動を監視する消費者。

光化学オキシダント

大気中の窒素酸化物や炭化水素などが、日射により光化学反応を起こして生成されるもののうち、オゾン、アルデヒド等の酸化性物質の総称で、光化学スモッグの主な原因とされている。

コンポスト化

微生物の働きによって生ごみを堆肥（コンポスト）にかえること。

（さ行）

産業廃棄物

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃アルカリ、廃プラスチック類など「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び同法施行令で定める合計20種類の廃棄物と、輸入された廃棄物のこと。これらは、事業者が自ら処理するか、知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者等に処理を委託しなければならない。

酸性雨

大気中の放出された硫黄酸化物や窒素酸化物などにより、酸性度が高くなって降る雨のこと。一般に、大気中の二酸化炭素だけが溶け込んだ雨（pH5.6）よりも酸性度が高い雨を酸性雨という。酸性雨は森林の枯死や湖沼等の生態系の破壊、文化財の侵食等の要因として地球環境問題のひとつになっている。

COD(化学的酸素要求量)

湖沼などの有機物による汚濁の程度を示す指標で、有機物を酸化剤で化学的に分解(酸化)

するときに消費される酸化剤に対応する酸素の量。数値が大きいほど有機物の量が多く、汚れが大きいことを示している。

省資源・省エネルギー

石油や石炭、森林などの稀少で限りある資源・エネルギーの枯渇を防ぐため、その消費を削減することで、無駄をなくし効率的に有効に利用したり、再利用・再生利用したりすること。

スーパーデバイス

超精密・超微細加工技術等の応用で製作される精密部品に、センサー等の機能を付加した超高機能部品。

諏訪湖に係る湖沼水質保全計画

諏訪湖の水質改善を図るとともに、潤いのある水環境づくりを目指すもので、湖沼法に基づく「湖沼水質保全基本方針」に従い策定されている。

現在平成 14 年度から 18 年度までの 5 カ年を第 4 期として計画が進行しており、総合的な対策を進めている。

(た行)

ダイオキシン

物の燃焼等の過程で副産物としてごく微量に生成される炭素、水素、酸素及び塩素で構成される化合物。塩素の数と配置によって 200 以上の種類があり、毒性の強さが異なる。環境中では分解しにくく、生物に対する毒性の強い物が多い。

大気汚染

人間の生産活動・消費活動によって大気が汚染され、生態系や人間の生活に悪影響が生ずること。特に、石炭・石油等の燃焼によって生ずるばい塵・ばい煙、二酸化炭素・二酸化硫黄、各種の窒素化合物、鉛などの各種の金属や光化学スモッグの影響となるオキシダントなどが大気汚染物質として挙げられる。

多自然型川づくり

水辺を多様な生物の生息空間(ビオトープ)の核として位置づけ、河川が本来持っている豊かな自然環境を保全するとともに、地域の風土に調和した美しい風景や景観を創出するための川づくりのこと。

地下水汚染

地下水が有機溶剤や重金属などによって汚染され、飲用として使用できなくなること。

地球温暖化

二酸化炭素やフロンガスなどは温室効果ガスといわれ、温室のガラスのように太陽光は透過するが、地球からの赤外線による熱放射は吸収するという性質(温室効果)を持っている。地球温暖化とは、石油や石炭などの化石燃料の燃焼や森林の減少などによって、二酸化炭素などの温室効果ガスが増加し、地球の平均気温が上昇すること。

地球環境問題

地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、海洋汚染、有害廃棄物の越境移動、森林(特に熱帯林)の減少、野生生物種の減少、砂漠化のように、人の活動によって地球規模の環境に影響

を及ぼす問題のこと。

窒素酸化物(NO_x)

窒素と酸素の化合物。空気は酸素や窒素等の混合気体であるため、空気中で物を燃やすとその過程で必ず窒素酸化物が発生する。大気中で存在する窒素酸化物で問題視されるものは、主に一酸化窒素、二酸化窒素であり、二酸化窒素については環境基準が定められている。

都市・生活型公害

都市化の進展や生活様式の変化により、主に私たちの日常生活にともなって発生する生活環境の悪化。自動車からの排出ガスによる大気汚染や生活排水による水質汚濁、近隣騒音等がある。

(は行)

BDF(バイオディーゼル燃料)

食用廃油を原料とした、軽油代替燃料。

BOD(生物化学的酸素要求量)

河川水などの有機物による汚濁の程度を示す指標で、水中の微生物が有機物を分解するときに消費される酸素の量。数値が大きいほど有機物の量が多く、汚れが大きいことを示す。

ビオトープ

「生物」を意味する bio と「場所」を意味する topos の合成語(ドイツ語)で、「生物の生息に適した場所」を意味する。植生豊かな水辺や雑木林等は多様な生物が生息・生育するビオトープといえる。また、開発事業などに際して積極的に維持、回復、創出が図られる野生生物の生息・生育環境という意味で用いられることもある。

PDC Aサイクル

Plan(計画)、Do(実行)、Check(点検)、Action(見直し)という手順を繰り返し、サイクルを重ねるごとに、より高い目的や目標を達成していくシステム。

非特定汚染源対策

農地・市街地など汚染源が特定できない場合の対策。例えば、肥料の流失を防ぐ対策、下水道を利用した市街地排水対策、諏訪湖周辺や観光地におけるゴミや空き缶などのポイ捨て防止対策など。

富栄養化

水の出入りの少ない閉鎖性水域では、工場、家庭などからの排水によって水中の栄養塩類である窒素やリンが増えると、藻類やプランクトンなどが太陽光線を受けて大增殖する。その結果、赤潮などが発生し、その死滅過程でさらに水中に窒素やリンが放出され、次第に栄養塩が蓄積される現象。

浮遊粒子状物質(SPM)

大気中を長期間浮遊している微粒子で、粒径が10μ(ミクロン)以下の極めて微細な粒子。ディーゼル車の排気ガス、道路粉じんなどが主な原因とされ、人の気道や肺胞に沈着し、呼吸器疾患の原因となる。環境基準が定められている。

(や行)

有機塩素系化合物

炭素や炭化水素に塩素が付加された化合物のこと。電子機械部品などの脱脂肪洗浄剤やドライクリーニング等に使用されているトリクロロエチレンやテトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン等がある。難分解性や蓄積性、毒性等は化合物により差はあるが、地下水汚染や食物連鎖による生物体内濃縮による有害性のほか、1,1,1 トリクロロエタンは、オゾン層破壊物質として問題となっている。

容器包装リサイクル法(容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律)

一般廃棄物の6割を占める容器包装類のリサイクルを進めるため、消費者に分別排出、市町村に容器類の分別収集、メーカーに再商品化を義務づける法律。1995年6月に成立。1997年4月施行。

横河川ラブリバー事業

地域に密着した川、また住民の生活に恵みを与えてくれる川として、横河川を整備し魅力と個性にあふれたまちづくりをするもの。

本事業は、「魚が泳ぐ自然とふれあいの川・横河川」をテーマとし、親水空間の形成、ふれあいの場の創出をし、地域に密着した水辺空間の保全と利用を図るものである。

(ら行)

ライフスタイル

人間が日常の生活や活動を行うときの様式(生活様式)のこと。ここでは主に資源やエネルギーの消費、ごみの廃棄などを示す。

近年の環境問題は、日常生活におけるガスや電気、石油や木材などの資源・エネルギーの大量消費やごみの大量廃棄による部分、すなわちライフスタイルのあり方による部分が大きくなってきている。そこで、環境の保全には日常生活において、より一層の省資源・省エネルギーを進めるなど、ライフスタイルを環境に配慮したものへと見直すことが重要といわれている。

リサイクル

不用となったものを新しい製品の原料あるいは材料として再利用すること。ごみ問題を解決する手段として、リサイクル(Recycle)のほかに、一度使用したものを形を変えずに再使用するリユース(Reuse)、極力ごみを出さないようにするリデュース(Reduce)があり、これらを合わせて3Rという。